病防第115号
平成24年２月10日

各関係機関長　様

熊本県病害虫防除所長

イチゴのうどんこ病およびハダニ類の発生状況（技術情報第１４号）について
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

県内イチゴ産地のほ場では、うどんこ病の潜在感染率が高く、ハダニ類も多発傾向にあります。両病害虫とも気温の上昇と共に発生が増加しますので、今後の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

１　発生状況

１）うどんこ病

県内主要イチゴ産地におけるうどんこ病の発生は、１月の巡回調査では、葉の発病株率0.7%（平年1.7%）で平年比やや少の発生であった。しかし、６月の育苗床における巡回調査では19.7%（平年7.2%）とやや多の発生、12月の本ぽにおける巡回調査では、2.7%（平年1.4%）とやや多の発生であり、潜在感染率は高いと考えられる。

２）ハダニ類

県内主要イチゴ産地におけるハダニ類の寄生葉率は、12月の巡回調査が9.7%（平年3.4%）、１月の巡回調査が10.3%（平年4.3%）と平年比やや多の発生が続いている。

２　防除対策

１）うどんこ病

ア　発病葉や不要な下葉など取り除き、ほ場外で処分する。
イ　多発後は、防除が困難なので、初期防除を徹底する。
ウ　薬剤防除は葉裏に十分かかるように散布する。
エ　薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の違う薬剤のローテーション使用を行う。

２）ハダニ類

ア　寄生葉や不要な下葉などを取り除き、寄生密度を下げ、薬剤をかかりやすくする。取り除いた寄生葉は、ほ場外で処分する。
イ　発生初期は、ハウスの一部分で発生する。ハウス内を良く観察し、早期発見に努める。
ウ　寄生密度が高くなると防除が困難なため、発生初期に防除する。
エ　薬剤は下位葉の葉裏にも十分かかるように散布する。
オ　薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の違う薬剤のローテーション使用を行う。

※なお、本文はホームページ「http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
生産環境研究所　病害虫研究室
担当：荒木、加賀山
TEL　：096-248-6490
FAX　：096-248-6493

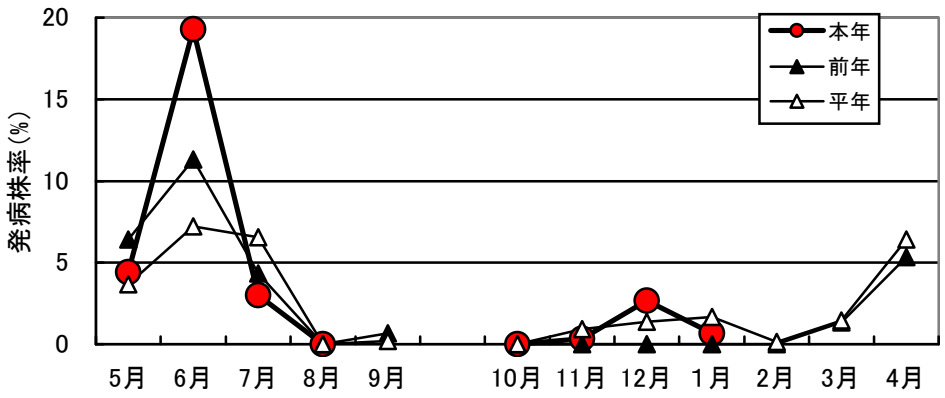

図１　巡回調査におけるイチゴのうどんこ病の発生推移
（5～9月は育苗床、10月～1月は本ぽにおける葉の発病株率）

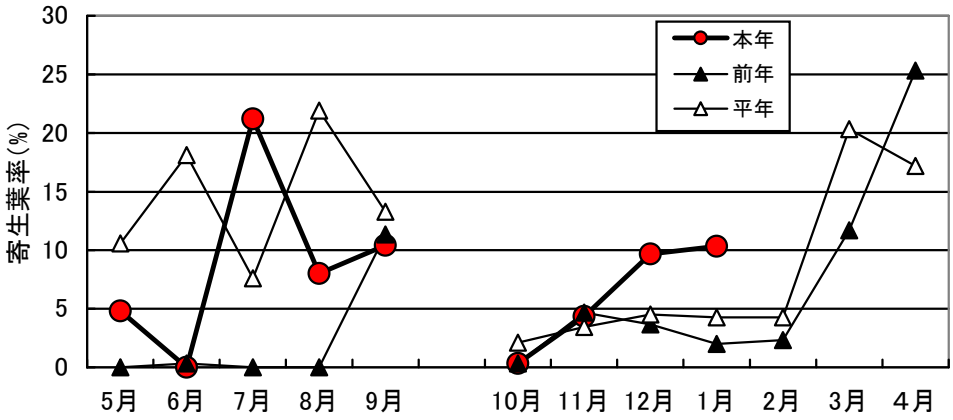

図２　巡回調査におけるイチゴのハダニ類の発生推移
（5～9月は育苗床、10月～1月は本ぽにおける葉の寄生葉率）